



令和元年

## 第4回名寄市議会定例会行政報告

名 寄 市

はじめに	1
“市民と行政との協働によるまちづくり”	3
・人権尊重と男女共同参画社会の形成	3
・交流活動の推進	4
・広域行政の推進	6
“市民みんなが安心して健やかに暮らせるまちづくり”	7
・健康の保持増進	7
・地域医療の充実	8
・子育て支援の推進	10
・高齢者施策の推進	11
“自然と調和した環境にやさしく快適で安全安心なまちづくり”	12
・環境との共生	12
・循環型社会の形成	12
・消防	13
・交通安全	14
・住宅の整備	14
・都市環境の整備	15
・上水道の整備	15
・下水道・個別排水の整備	16
・道路の整備	16
・地域公共交通	18
“地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまちづくり”	18
・農業・農村の振興	19
・森林保全と林業の振興	20
・商工業の振興	21
・雇用の安定	23
・観光の振興	24
“生きる力と豊かな文化を育むまちづくり”	26
・小中学校教育の充実	26
・大学教育の充実	28
・生涯学習社会の形成	29
・生涯スポーツの振興	32
・青少年の健全育成	33
・地域文化の継承と創造	34

本日、令和元年第4回定例会の開会にあたり、これまでの主な行政事項について、その概要をご報告申し上げます。

## はじめに

はじめに、本年度の文化賞等、各種表彰について申し上げます。

11月3日の文化の日に、名寄市文化賞条例に基づき、「名寄市おもちゃライブラリー」と「名寄・リンゼイ姉妹都市友好委員会」に文化奨励賞を授与いたしました。

「福祉部門」、「地域福祉の充実」で受賞された「名寄市おもちゃライブラリー」は昭和61年度に創立され、以来30年以上にわたり心身に障がいのある子どもたちに、おもちゃを通じて夢と希望を与え、機能訓練を助けながら「共に生きる地域福祉の充実」に努めてこられた団体であります。

「おもちゃ図書館」の開設をされながら、ふれあい広場やミニバリアフリーおもちゃ博 in なよろに参加するなど、子どもたちへの支援活動に積極的に取り組まれており、本市の福祉文化、とりわけ地域福祉の振興に多大なる功績を残されております。

また、近年では、利用する子どもたちの親が子育てに関する情報を交換する場、親同士の交流親睦の場としても利用されており、その活動は子育て支援としても大きく貢献しているところです。

本市におきましても、障がいのあるなしに関わらず全ての人が地域社会を構成する一員として尊重され、市民が共に支え合う取組を進め、誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指してまいります。

「科学部門」、「国際親善交流」で受賞された「名寄・リンゼイ姉妹都市友好委員会」は、本市とカナダ国オンタリオ州リンゼイ市が姉妹都市宣言をした翌年の昭和 45 年度に設立され、以来 49 年にわたり姉妹都市との親善交流を目的に活動されてきた団体であります。

道北地域において国際交流の先駆けとなったこの姉妹都市提携は、人的交流活動を中心に取り組まれており、相互親善訪問ではこれまで 342 人の方々がお互いの街を訪問し交流を深めてきているとともに、交換学生事業では次代を担う 85 人の青少年がホームステイなどを通じて国際的視野を身に付けてきております。

このように、本市における国際交流の文化発展に多大なる功績を残されており、さらに本年におきましては姉妹都市提携 50 周年となる節目の年であることから、「なよろイングリッシュキャンプ」の開催や記念誌の発刊など記念事業を実施することで、これまで以上に市民レベルでの友好親善や相互理解が図られているところであります。

本市としましても、これまで築き上げた友好関係をさらに深め、両市の国際文化が発展するよう努めてまいります。

次に、名寄市表彰条例に基づく各表彰については、自治、社会福祉、保健衛生、産業経済、労働、教育文化、住民運動実践の各分野で市勢の発展に寄与された 28 個人に功労表彰を、多額の寄附をいただいた 6 個人、28 団体に善行表彰を、芸術、文化、スポーツなどの分野で輝かしい活躍をされた 3 個人、1 団体に荣誉賞をそれぞれお贈りいたしました。

受賞された皆さんには、今後とも本市の発展にご尽力を賜りますとともに、より一層のご活躍とご健勝を願っております。

## **“市民と行政との協働によるまちづくり”**

### **人権尊重と男女共同参画社会の形成**

次に、男女共同参画社会の形成について申し上げます。

11 月 12 日から 25 日までの「女性に対する暴力をなくす運動」の取組として、11 月 9 日開催の市内イベント会場において、啓発グッズの配布、DV（ドメスティック・バイオレンス）に関する相談窓口の周知などを行いました。

11 月 16 日には、男女共同参画の先進国であるフィンランドからの留学生を講師に「個人と家族から見た仕事と余暇」をテーマに男女共同参画セミナーを開催し、多くの市民の皆様にご来場いただきました。また、セミナーの前段に、名寄市男女共同参画推進事業者等

表彰式を行い、夜間・休日預かりなどの一時保育を実施し、市民の仕事と生活の調和を支援する取組をしている「一般社団法人どろんこはうす」様を表彰し、広く市民に周知しました。

## 交流活動の推進

次に、交流活動の推進について申し上げます。

山形県鶴岡市との交流については、名寄・藤島交流友の会が10月19日から20日まで鶴岡市小真木原公園<sup>こまぎはら</sup>で開催された「つるおか大産業まつり2019」に出展し、藤島・名寄交流友の会会員や藤島庁舎職員などの協力を得て、ソフト大福などの特産品を販売しました。

東京都杉並区との交流については、10月25日から3日間にかけて、交流自治体協定締結30周年を記念した企画事業「ジャズと秋の大文化祭を楽しむツアー」に参加のため、市民16人が杉並区を訪問しました。区内で開催中の音楽イベント「阿佐谷ジャズストリート2019」の鑑賞や文化施設の見学などを通じて、杉並区の魅力を体験するとともに、6月に本市を訪れた区民ツアー参加者との交流会などを通じ、杉並区民との交流を深めました。

また、11月2日から3日まで杉並区立桃井原<sup>ももいはら</sup>つば公園で開催された「すぎなみフェスタ2019」において、杉並区職員などの協力もいただきながら、なよろ煮込みジンギスカンやソフト大福などの販売

を行いました。

ふるさと会の交流については、東京なよろ会の総会が10月26日に東京都内において、会員をはじめ約70人の出席により開催され、創立35周年記念事業として、カーリングのジュニア育成を目的に、カーリング用具を寄贈することや首都圏での物産販売支援などの事業計画が承認されました。また、引き続き行われた「なよろを味わう会」では、本市の農産物を使用した料理が振る舞われ、出席者は懇親を深めました。

台湾との交流事業については、10月31日から2日間、台湾の学校関係者6人をお招きし、教育旅行先としての当地域の魅力をPRしました。

また、名寄日台親善協会が道北なよろ農業協同組合と連携し、農業青年の国際的な視野を広めるとともに、台湾交流を担う人材の育成を図る目的で、市内の農業青年4人を、11月25日から29日の日程で太保市に派遣しています。ホームステイや農業実習、国立嘉義<sup>かぎ</sup>大学の学生との意見交換などを通じて、お互いの地域の文化や農業を肌で感じるとともに、農業青年同士の交流を予定しています。

次に、移住の推進について申し上げます。

移住PR事業については、札幌市で開催された移住イベントを通

じて、2人の方が本市との関係性づくりのために来訪されました。市内の主要施設の見学をはじめ、移住者や商店街の方々と意見交換をするなど、地域を知っていただく機会を設け、今後の移住や関係人口につながるよう交流を深めました。

また、11月9日には東京都内で子育て世代を対象としたイベントを開催しました。本市にUターンされ、子育てと仕事を両立しながら、趣味を活かした生活を送っている方をゲストに、地域の魅力や子育て環境を紹介し、参加者との交流を行いました。また、翌日に開催された北海道移住イベント「北海道暮らしフェア」にも出展し、移住相談や情報発信に努めてまいりました。

お試し移住住宅については、11月20日現在、道内外から6件15人の利用があり、本市での生活を体験されています。引き続き移住推進に向けPR強化を図ってまいります。

## **広域行政の推進**

次に、定住自立圏について申し上げます。

11月5日に定住自立圏構成市町村長会議を本市で開催し、結びつきやネットワークの強化を図るため、効率的で持続可能な地域公共交通について議論を深めていくことを確認するとともに、環境省地球環境局地球温暖化対策課事業監理室長のこらいたかお古来隆雄氏をお招きし、

「エネルギー対策特別会計を活用した地域の低炭素化に関連する施策」についてご講演いただきました。

今後とも、新たな広域連携事業の研究などを進めるとともに、定住自立圏共生ビジョンの着実な推進を図ってまいります。

次に、広域行政の推進について申し上げます。

天塩川周辺 11 市町村で構成する「テッシ・オ・ペツ賑わい創出協議会」では、11 月 24 日に「天塩川フォーラム」を開催し、北海道の名付け親とされ、天塩川を踏査した幕末の探検家松浦武四郎に関する紙芝居やドキュメンタリー番組の上映、パネル展示などを通して、広く地域住民の皆様在天塩川の歴史や魅力を知っていただく機会となりました。

## **“市民みんなが安心して健やかに暮らせるまちづくり”**

### **健康の保持増進**

次に、健康の保持増進について申し上げます。

「第 32 回なよろ健康まつり」については、11 月 9 日に市民文化センターにおいて、名寄市立大学や名寄保健所などと協働し、「みんなで広げよう健康の輪」をテーマに開催しました。骨密度測定や簡易ストレスチェックなどの体験コーナーと地場産食材を使った試食コ

一ナーを設け、766 人の参加をいただき生活習慣の見直しや健康への啓発を図りました。

多くの市民の集う場をつくるため、「2019 地産地消フェア in なよろ」と同時開催し、17 団体の出展のもと、名寄産農産物及び加工品の販売や試食などの催しが行われ、多くの市民に足を運んでいただきました。

さらに、「食育の小路」と題した食育と健康のコラボレーション企画を実施し、食品ロス削減の啓発や清涼飲料水などに含まれる糖分量の展示を行うとともに、カルビー株式会社食育チームのご協力もいただき、食育と健康に対する関心を高める機会づくりの場となりました。

## **地域医療の充実**

次に、名寄市立総合病院の本年度上半期の運営状況について申し上げます。

ご報告が遅れましたが、7月22日に厚生労働省医政局長吉田学氏が当院を訪れ、救命救急センターやヘリポートを視察されました。

和泉事業管理者から「北北海道の地域医療の現状と当院の役割」について説明を行い、地域医療構想の実現に向けて、地方の中核病院の救急機能維持と連携、医師派遣機能、ICTの活用などについて

て有意義な意見交換をさせていただいたところです。

本年7月に設立5年目を迎えた「名寄市立総合病院サポートクラブ」様から、病院周辺環境整備の一環として、彩り豊かなフラワープランターとジャンボカボチャを玄関周りに設置いただき、来院者の心を癒していただきました。

ナースカフェの支援やロビーコンサートの開催、病院情報や活動の様子を「サポートニュース」として広く市民の皆様へ周知いただくなど、会員の皆様にはこれまでのサポート活動に心から感謝いたします。今後も、市民と病院との懸け橋役としてご支援くださいますようお願いいたします。

患者取扱状況は、入院患者数が延べ4万8,334人で前年比1,272人の減となり、外来患者数では延べ11万5,711人で前年比1,310人の増となっています。

収支の状況は、事業収益は48億3,394万円で前年比6,705万円増、事業費用は48億4,869万円で前年比7,047万円増となり、事業収支は1,475万円の純損失となりました。

今後も、医業収益の確保や経費の節減に努めることにより収支の改善を図り、経営の健全化に向け、より一層努めてまいります。

次に、名寄東病院の本年度上半期の運営状況について申し上げます。

す。

患者取扱状況は、入院患者数が延べ1万2,193人で前年比2,248人の減となり、外来患者数では延べ2,193人で前年比32人の減となりました。

また、収支状況では、事業収益は3億9,733万円で前年比2,276万円増、事業費用は2億9,888万円で前年比320万円減となり、事業収支は9,845万円の純利益となりました。

### **子育て支援の推進**

次に、子育て支援の推進について申し上げます。

国は、急速な少子化の進行並びに幼児期の教育及び保育の重要性に鑑み、総合的な少子化対策を推進する一環として、子育ての経済的負担の軽減を図ることを目的に、小学校就学前の幼児教育・保育の無償化並びに発達支援の無償化を、10月から開始しました。本市内においては、認可外施設を含む全ての幼児教育・保育施設が無償化の対象施設となっています。

また、11月より、ひとり親家庭の利便性の向上及び家計の安定を図る観点から、児童扶養手当の支給回数が現在の年3回から年6回に変更となりました。

今後も、市民のニーズや要望に対応し、子育て支援のさらなる向

上を図るため、国や道に対し制度の拡充などについて要望を行いながら推進してまいります。

## 高齢者施策の推進

次に、高齢者施策の推進について申し上げます。

「長寿を祝う会」については、9月21日に市民文化センターE N - R A Yホールにおいて、市内関係団体と実行委員会を組織し開催しました。

長年にわたり本市の発展にご尽力いただいた、男性101歳と女性109歳の最高齢者をはじめ、白寿、米寿を迎えられた236人と金婚を迎えられた60組のご夫婦をお招きし、お祝いを申し上げ、記念品を贈呈しました。

併せて「名寄市生きがい作品展」を9月18日から23日まで開催し、123点の力作の数々を市民の皆様にご覧いただきました。

また、町内会など81団体が敬老事業を実施し、75歳以上の5,188人が温かい祝福を受けました。

10月5日には、豊栄区町内会や株式会社エフエムなよろ、名寄警察署などの関係機関の協力を得て、「名寄市徘徊高齢者S O S ネットワーク検索模擬訓練」を実施しました。訓練では、行方不明者役が豊栄区町内会付近を徘徊し、「徘徊高齢者S O S ネットワーク」を用

いて行方不明者役の情報を発信し、地域の方に捜索協力の呼びかけを行いました。町内会の方には、行方不明者役に声かけをしながら、地域の中で面識のない高齢者に対してどのように接すればよいのかを体験していただきました。

10月26日には、名寄ひまわり基金法律事務所の弁護士である菊地<sup>きくちけんた</sup>顕太氏を講師に迎え、「任意後見制度」をテーマに権利擁護講演会を開催しました。講演会には、100人を超える市民の皆様に参加をいただき、福祉寸劇と菊地氏の解説を通して、楽しく学ぶ機会となりました。

## “自然と調和した環境にやさしく快適で安全安心なまちづくり”

### 環境との共生

次に、環境との共生について申し上げます。

10月12日に名寄消費者協会主催で行われた「第50回みんなの消費生活展」に出展し、節電に関するクイズやパネル展、水素を燃料とする燃料電池自動車の展示を行いました。クイズには約130人の方に参加いただき、新エネルギーや省エネルギーについての理解を深めてもらうことができました。

### 循環型社会の形成

次に、循環型社会の形成について申し上げます。

5年ごとに作成している一般廃棄物収集に係る「ごみ分別ガイドブック」と「ごみ分別ポスター」を10月に全戸配布しました。スプレー缶類の収集区分の変更や、収集・処理方法を更新し、より具体的に分かりやすい内容に見直しを行いました。

また、10月14日から20日までの秋の清掃週間では、20日を一斉清掃日と定めて地域の清掃活動を呼びかけました。期間中は多くの市民に清掃作業など美化活動に取り組んでいただき、環境美化と市民意識の醸成を図ることができました。

## **消防**

次に、消防事業について申し上げます。

10月末現在までの火災及び救急・救助出動状況については、火災件数は2件で前年比6件の減で、死者が1人発生しています。また、救急出動件数は891件で前年比35件の減、救助出動件数は36件で前年比5件の増となりました。

住宅防火対策の推進は、10月15日から31日までの「秋の全道火災予防運動」期間中に一般家庭や高齢者宅の防火訪問、防火対象物や危険物施設の立入検査の実施、防火ポスターの配布、関係機関の協力による大型店舗での火災予防広報など、防火対策の啓発や火災

予防のPR活動を実施しました。

## **交通安全**

次に、交通安全について申し上げます。

交通事故のない住みよいまちづくりに向け、9月21日から10日間にわたって秋の交通安全運動が実施されました。期間中、市民や関係団体のご協力のもと街頭啓発などが取り組まれ、9月30日には西條デパート前において、市民や関係団体240人が結集した「旗の波作戦」を実施し、交通事故防止の啓発を行いました。

## **住宅の整備**

次に、住宅の整備について申し上げます。

公営住宅の建設事業については、昨年度に着工した北斗団地1棟12戸の建替工事が10月に完成し入居開始となっています。

環境整備事業として7月に着工した緑丘第1団地4棟8戸の外部改修工事は11月に、緑丘第1及び東光団地の高齢者向け住宅29戸の緊急通報装置改修工事は9月にそれぞれ完成しています。

また、風舞団地長寿命化改修工事の実施設計業務は、来年1月の完了を予定しています。

今後も、公営住宅等長寿命化計画に基づき、改善事業や修繕を行

い、住宅を適正に管理してまいります。

## 都市環境の整備

次に、都市環境の整備について申し上げます。

都市公園の長寿命化計画に基づく施設整備については、大橋公園は7月に、ナナカマド公園は11月に更新工事が完成しています。

また、現在施工中のカエデ公園とえんれい公園については、来年2月の完成を予定しています。

名寄市都市計画マスタープラン見直し及び名寄市立地適正化計画策定については、9月30日に都市計画審議会から答申をいただき、その素案を10月9日に開催した市民説明会にて説明をいたしました。その際、策定委員会アドバイザーの北海道大学森 傑<sup>もりすぐる</sup>教授からご講評をいただき、計画の確認と市民理解を深めてまいりました。また、10月11日からはパブリックコメントを実施し、いただいたご意見のほか、国や北海道からの助言を計画へ反映させるとともに、20年後も持続可能なマチとなる計画として策定を進めてまいりました。

## 上水道の整備

次に、水道事業について申し上げます。

安定した給水を確保するための老朽管更新工事<sup>ろうきゅうかん</sup>については、東8

号線(南 10 丁目～南 12 丁目)老朽管更新工事ほか 1 路線、延長 1,315 メートルを 11 月に完成しています。

また、検定期間満了にともなう量水器の交換や、給水管の漏水調査についても終了し、漏水個所については必要な修繕を完了しています。

### **下水道・個別排水の整備**

次に、下水道事業について申し上げます。

名寄下水終末処理場及び風連浄水管理センターにおける機械設備と電気設備更新工事の進捗状況は、来年 3 月の完成に向け、機器の工場製作や更新機器の搬入据付はんにようすえつけに着手しています。

下水道汚水管渠かんきょについては、公共下水道ストックマネジメント計画に基づき、管渠更生工事 2 路線、延長 125 メートルを 9 月に完成しています。

また、個別排水処理施設整備事業については、9 基の合併浄化槽の設置に着手し、このうち 8 基が 11 月までに完成しています。

### **道路の整備**

次に、道路整備について申し上げます。

社会資本整備総合交付金により整備を進めている北 1 丁目通は 9

月に、南3丁目通については11月に工事が完成し、新規路線の豊栄西12条仲通については来年1月の完成を予定しています。

また、本市単独費により整備を進めていました北西9条右仲通は8月に、西1条通は9月に改良舗装工事が完成し、風連大沼線の舗装改築工事については10月に工事が完成しています。

次に橋梁整備について申し上げます。

名寄市橋梁長寿命化修繕計画に基づく整備については、東一号橋の修繕工事は9月に完成し、忠烈布一線橋は12月に完成を予定しています。

また、56橋の近接目視点検は来年1月に、5橋の実施設計については、来年3月の完了を予定しています。

ぼうじん

市道の維持補修にかかる防塵処理工事については、183路線、約27.3キロメートルを完了しています。

次に、市道の除排雪について申し上げます。

本年度の除排雪対策については、除雪延長434キロメートル、排雪延長149キロメートルを実施する計画としています。

10月23日に除雪事業の契約を締結し、効率的で効果的な除排雪体制の確立に努めてまいります。また、安全な道路空間の確保を図る

ため、幹線道路ではこれまで同様に複数回の排雪と積上げ除雪を実施してまいります。

12月中旬には除雪ドーザ1台の更新を予定しており、これまで以上に作業の効率性や運用性などが高まるものと期待しています。

## **地域公共交通**

次に、地域公共交通について申し上げます。

鉄路については、宗谷本線の利用促進に向けた取組として、宗谷本線活性化推進協議会において、昨年度ご好評をいただきました「宗谷線フォトコンテスト」を実施し道内外の83人から132作品の応募をいただくとともに、新たな取組として宗谷本線の利用者を対象に、駅の概要や周辺の観光地などを掲載した「宗谷線ステーションカード」を、11月上旬から名寄駅を含む12の駅で配布いたしました。

また、11月18日にはJR北海道に対し、地域住民・利用者ニーズが高く、利用促進につながると考えられる稚内－札幌間の特急直通列車の増便に向けた要望を行ってきています。

引き続き、関係機関と連携し、宗谷本線の維持・存続に向けた取組を推進してまいります。

**“地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまちづくり”**

## 農業・農村の振興

次に、農業・農村の振興について申し上げます。

はじめに主要農作物の生育状況などについて申し上げます。

水稲については、10月15日現在の農林水産省の作況指数は、全国で99の「平年並み」となったもの、本市を含む北海道104、上川では105の「やや良」となりました。本市の11月12日現在の出荷状況は概ね5割で、もち米<sup>ごめ</sup>13万5千俵、うるち米<sup>まい</sup>1万9千俵、合計15万4千俵となり、一等米<sup>まい</sup>比率は約98パーセントで、収量は平年よりやや良い状況となっています。

畑作については、秋小麦、春小麦、大豆は平年並みとなりました。また、馬鈴しょは平年よりやや良、てんさいは平年並み、かぼちゃ、玉ねぎ、スイートコーンは平年をやや下回る見込みとなりました。

畜産については、9月末での過去1年間の生乳生産量は13,438トン、乳代は補給金を含め平均で1キログラムあたり101円と前年同水準で推移しています。

次に、経営所得安定対策について申し上げます。

まず、転作関係では、対象農家514戸、対象面積2,879ヘクタールで、水田活用の直接支払交付金が5億8,887万円、産地交付金が8億918万円となり、合わせて13億9,805万円の年内交付を予定して

います。

畑作関係では、畑作物の直接支払交付金のうち、既に営農継続払い3億9,803万円が交付されており、今後は数量払いの交付を見込んでいます。

次に、有害鳥獣対策について申し上げます。

11月13日現在のエゾシカ駆除については、352頭を駆除し昨年よりやや減少しました。また、アライグマ駆除についても、212頭と減少しています。

ヒグマ対策については、本年度の捕獲許可期間を12月27日までとしており、11月13日現在の出没情報は、昨年度の総件数43件に対し6件多い49件の出没報告件数となっています。

次に、畜産振興について申し上げます。

公共牧場については、名寄市営牧野では5月30日から10月18日まで、母子里地区共同牧場では5月31日から10月19日まで市内酪農家13戸から259頭を受け入れ、適正な飼養管理により高い受胎率と個体の資質向上を図ってきました。

## **森林保全と林業の振興**

次に、森林保全と林業の振興について申し上げます。

本年度から譲与が開始された森林環境譲与税については、「基本方針」を10月に公表し、現在、次年度からの活用に向けて、林産業者の意向などを踏まえ、具体的な用途について検討を進めています。

持続可能な森林管理と地域材のブランド化などを旨とする森林認証制度については、平成30年度から上川管内の市町村及び森林組合で構成する「上川森林認証協議会」で取り組まれており、9月5日付で、管内で約8万9千6百ヘクタール、うち本市で約9千9百ヘクタールの森林が認証登録されました。

## **商工業の振興**

次に、商工業の振興について申し上げます。

北海道が公表した令和元年7月期から9月期までの上川北部地域の地域別経済動向調査の結果では、公共工事の減少、資材価格の増加傾向、人材不足、販路減少など地域景況は依然として厳しい状況にあるものの、宿泊・飲食業などにおいては例年並みに推移していることから、地域全体の業況としては「普通」と判断されています。

昨年度までの名寄市住宅改修等推進事業に、新たに雪対策工事などを拡充した名寄市ずっと住まいる応援事業については、9月26日に本年度予算額に達したことから、交付申請の受付を終了したとこ

ろです。

本年度の申請件数は 177 件、交付決定額は 2,995 万円であり、拡充した移住者加算は 5 件、空き家加算は 2 件、雪対策に係る外構工事は 4 件となっています。

今後も市民や事業者ニーズを調査・検証し、地域経済の活性化と良質な住環境の整備に努めてまいります。

名寄市プレミアム付商品券発行事業については、対象と思われる住民税が非課税の方のうち、10月31日時点で申請された方は 1,785 世帯 2,568 人、また、対象となる子が属する世帯は 646 世帯で子どもの数は 714 人となりました。商品券の販売については、9月24日から名寄商工会議所及び風連商工会で行っており、11月11日時点での商品券取扱店舗数は 153 店舗となっています。今後も地元紙や広報などを活用し、事業周知を図ってまいります。

王子マテリア株式会社名寄工場の生産品集約については、10月4日に、同社社長が来庁し報告を受け、同日午後に発表されました。事前の報告はなく突然の話であったことから、10月9日に、北海道産業振興局長、上川総合振興局長、道議会議員、名寄商工会議所会頭とともに同社本社を訪れ、社長に対して改めて再考を求めたのに続き、10月15日には市、名寄商工会議所、風連商工会で構成し、市議会と北海道をオブザーバーとする「王子マテリア株式会社名寄工

場生産品集約に関する名寄市緊急対策本部」を設置しました。この対策本部を中心に、北海道と連携し市への影響額の緊急調査を行い、影響額を定量化したうえで、10月31日に北海道経済部長、道議会議員、市議会議員、名寄商工会議所会頭、風連商工会会長などとともに、同社本社において社長に対し、昭和35年の天塩川製紙設立以来60年にわたる本市との歴史や地域への影響の大きさを踏まえ、改めて再考を求める要請書を提出してまいりました。

現在、緊急対策本部が中心となって、撤退の再考を求める署名活動が行われておりますが、こうした草の根の動きを通じた市民の皆様の声が届けるために、年内を目途に、王子ホールディングス株式会社に要請に行く予定です。本件については、まちづくり懇談会などを通じ市民の皆様にお知らせしておりますが、今後も、情報共有を図り地域として取り組んでまいりたいと考えています。

## **雇用の安定**

次に、労働関係について申し上げます。

ハローワーク名寄管内における9月末現在の月間有効求人倍率は1.50倍で、8カ月連続で前年同月を上回っており、依然として高い水準を維持しています。

また、9月末現在の来春の管内新規高等学校卒業予定者は611人で、

このうち、学校・安定所の紹介を希望する者は 147 人で前年同月比 5 人の減、管内での就職希望者は 82 人で前年同月比 5 人の減、就職内定者数は 48 人で前年同月比 5 人の増加となっています。

## **観光の振興**

次に、観光の振興について申し上げます。

道の駅「もち米の里☆なよろ」については、9 月末までの上半期における入込客数が 29 万 8,194 人で、大型バスの立ち寄りの減少などにより、前年度比 1 万 2,403 人の減少となりました。売上額は昨年度並みで推移おり、今後も指定管理者と連携し地場特産品などの販売をはじめ、地域の P R に努め多くの方に利用いただける魅力ある施設づくりに取り組んでまいります。

名寄ピヤシリスキー場については、早期のオープンを目指し 11 月上旬にリフトの整備を行いました。また 11 月 22 日にはピヤシリスキー場安全祈願祭が行われ、シーズン中における安全と無事故を祈願しました。

株式会社名寄振興公社については、市内唯一の温浴施設であり、本市の重点プロジェクトである冬季スポーツ拠点化の核となる施設の運営を止めないことを最優先に考え、公社の経営を立て直すため体制を刷新し、新たに橋本副市長が社長に就任したことに加え、第

三セクターである公社を指導・監督・検証することを目的に、担当する市職員をはじめ、会計・経理、法務コンプライアンスなどの専門家で構成する委員会を設置して、市として積極的に経営改善に向けて関わっていくこととしました。まちづくり懇談会などを通じた市民との情報共有や、市議会において第3回定例会最終日に設置された特別委員会での審議などを踏まえ、新たに提出させていただく経営改善計画とともに、必要な支援策として補正予算案及び公社の体制強化に必要な特定団体への職員派遣に関する条例の改正案を提出いたしますので、ご審議のほどお願い申し上げます。

なお、なよろ温泉サンプラーについては、9月6日に男性浴場の天井が落下する事案が発生し、緊急的な修繕による安全対策と確認のため、9月7日から21日までの15日間にわたり休業することとなり、利用者の皆様には大変ご迷惑をお掛けしました。施設の安全対策や日々のチェック機能を高め、利用者の皆様に安全・安心・快適にご利用いただけるよう努めてまいります。

次に、物産振興事業について申し上げます。

10月25日から26日まで、東京都杉並区役所前などにおいて、「北海道名寄市物産展」を開催し、生産者などが旬のかぼちゃやもち米、トマトジュースなどの販売とPR活動を行いました。

11月1日には札幌市内のホテルにおいて、なよろ観光まちづくり協会主催による「なよろナイト」が開催され、参加された本市に所縁のある方々に対し、名寄産農産品などを使用した料理を提供するとともに、名寄市物産展や特産品を景品とする抽選会を実施し、本市のPRを図りました。

今後も、民間を主体とした地場産品の知名度の向上や魅力を発信する機会を提供してまいります。

## “生きる力と豊かな文化を育むまちづくり”

### 小中学校教育の充実

次に、学校教育について申し上げます。

確かな学力を育てる教育の推進については、11月18日に名寄小学校と名寄東中学校を会場として名寄市教育研究大会を開催しました。名寄小学校では、子どもたちの主体性を育てる授業づくりの工夫をテーマに、指導過程に応じた板書の工夫や主体性を育てるノート指導の方法について活発な協議が行われました。

名寄東中学校では、互いに認め合い、落ち着いて学び合うことができる生徒を育てるため、国語、数学、社会、理科、英語、体育及び道徳などの授業が公開され、授業改善のあり方について研修を深めました。

豊かな心を育てる教育の推進については、9月13日に智恵文中学校において、名寄市教育改善プロジェクト委員会による「特別の教科 道徳 公開授業研修会」が開催されました。本市にゆかりのある木原秀雄氏の生き方を題材とした中学生向けの授業が公開され、子どもたちが自己の生き方を考え深めることのできる道徳の指導のあり方について、熱心な協議が行われました。

また、9月25日には、市民文化センターE N - R A Yホールを会場に、児童生徒の豊かな情操を育むため、名寄市小中学校音楽発表会が開催されました。

特別支援教育の推進については、10月3日に市民文化センターにおいて、名寄市立大学保健福祉学部社会保育学科教授安永啓司氏<sup>やすながひろし</sup>を講師に迎え、「通常の学級における特別支援教育推進の要点～個別の指導計画を考える～」をテーマに、市内小中学校の管理職などを対象とした研修会を行いました。本市はもとより、士別市や下川町、幌加内町の教員など41人が子どもたち一人一人の困り感に応じた支援のあり方について学びました。

社会の変化に対応する力を育てる教育の推進については、11月8日に名寄南小学校において名寄市教育改善プロジェクト委員会と北海道立教育研究所による連携研修講座が開催され、プログラミング教材を用いた演習を通して、小学校で必修となるプログラミング教

育の指導方法について研修を深めました。

学校における食育の推進については、児童生徒が将来にわたり食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身に付けるため、栄養教諭を中心に食に関する指導の充実に努めています。

学校給食で使用する食材は、安全な食材の選定に注意を払いながら地場農産物の活用に努めています。10月2日と29日の両日に、名寄産食材を中心とした「名寄給食の日」を実施し、児童生徒が地場農産物に対しての理解を深めたところです。

## **大学教育の充実**

次に、名寄市立大学について申し上げます。

令和2年3月末で任期満了となる名寄市立大学の学長選挙が去る11月6日に行われ、野村陽子氏が当選されました。

なお、任期は、令和2年4月1日から令和6年3月31日までの4年間となります。

10月1日に名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター主催の市民公開講座を開催しました。北海道大学公共政策大学院客員教授で本学参与会委員の石井吉春氏を講師にお迎えし、「総合計画と大学の役割」と題してご講演をいただきました。講座には38人が参加し、総合計画にて「大学教育の充実」を掲げる本市において、大学

がどのような役割を果たすのかについて、本市の人口動向を分析しながら一緒に考えました。

10月17日に岡山県の新見公立大学と学術交流協定書を締結しました。本学と新見公立大学は、いずれも保健福祉系の公立大学で大学の規模や学科構成、設置経緯が類似しており、これまでも大学運営や施設整備で情報交換を行ってきましたが、今後はこの協定締結により、学生や教員の交流、研究・教育の共同実施など様々な事業を計画的に実施してまいります。

本年で13年目となる名寄高校との高大連携事業「研究室訪問・大学授業体験」を10月9日に実施しました。本年度は、高等学校学習指導要領の改訂に伴う「総合的な探求の時間」の導入により、生徒が主体的に課題を設定し、情報の収集や整理分析を行ってまとめるといった能力の育成を支援する場として行ってきました。

名寄高校1年生99人が参加し、研究室訪問の後、希望する各学科の模擬授業や学生との交流を体験し、進路選択の一助としました。

今後も、地域に根ざした教育活動の展開と名寄市立大学の特色と専門性を活かした地域貢献活動の取組に努めてまいります。

## **生涯学習社会の形成**

次に、生涯学習社会の形成について申し上げます。

9月29日に、市民文化センターを会場に「生涯学習フェスティバル 2019in なよろ」を開催しました。出会いの広場には7団体が出演、ワークショップブースには14団体が出展し、そのうち14団体が体験教室を実施しました。

10月10日には、市民講座「エンレイカレッジ」を開講しました。受講者9人には5回の講座を通じて、地域の活動を学び、まちづくりについて関心を深めていただく予定です。

10月23日には、市民文化センターを会場に名寄ピヤシリ大学の大学祭を開催し、各学年やクラブによる芸能発表に約140人の来場がありました。また、10月15日から同会場で実施した展示発表では、多くの市民が工夫を凝らした作品を楽しみました。

次に、市立図書館について申し上げます。

地域住民が抱える医療・健康に関する課題を解決する支援策として、10月2日から「がん情報コーナー」を設置しました。このコーナーは、国立がん研究センターの科学的根拠に基づき作成されている、各種がんに関する資料を展示したものです。がんに関する情報を気軽に得られる場の提供に努めてまいります。

10月27日から11月9日の読書週間には、「雑誌リサイクル」や「ビブリオバトル」などを行いました。子どもから大人まで多くの方の

参加をいただき好評を得たところです。ビブリオバトルは、知的書評合戦とも言われるゲーム性の高いもので、自分が読んでおもしろいと思った本の感想を伝え合い、チャンプ本を決めていきます。本の楽しさを知り、それを共有することで生きる力を育むきっかけづくりとなるよう、今後も取り組んでまいります。

次に、なよろ市立天文台について申し上げます。

天文台は来年4月に開台10周年を迎えることから、開台を記念する企画として、11月1日から天文台のロゴマークを募集しています。天文台をより多くの方々に知っていただき、親しんでもらうことをはじめ、プレスリリースなどの際にも使用することを目的としており、来年1月末まで募集し、来春には公表の予定となっています。

9月10日から16日まで、中秋の名月である十五夜に合わせ、お月見観望会を開催しました。天候に恵まれ、スマートフォンでの月の撮影など、258人の方に楽しんでいただくことができました。

10月31日から5日間、移動式天文台車ポラリスⅡを交流自治体である東京都杉並区へ派遣しました。小学校での理科の授業や、桃井原<sup>ももいはら</sup>っぱ公園などでの観望会に、延べ2,462人の区民の皆様に参加をいただきました。

## 生涯スポーツの振興

次に、生涯スポーツの振興について申し上げます。

スポーツ施設の整備については、10月28日から11月1日にかけて、老朽化に伴う名寄市スポーツセンターの高圧電源設備取替修繕を行い、施設の長寿命化と安心してスポーツに取り組める環境を提供しているところです。

また、なよろ健康の森クロスカントリーコースについては、本年3月に開催したJOCジュニアオリンピックカップのスキー大会において、けが人が発生したことから、一部コースの安全対策として、名寄建設業協会様のご協力により、支障木の伐採やコースの改良を行っていただいたところです。名寄建設業協会の皆様のご協力に、心から感謝申し上げます。

スポーツ振興事業については、Nスポーツコミッションのジュニア育成事業の一環として、8月13日に2008年北京オリンピック4×100メートルリレーで銀メダルを獲得した高平慎士<sup>たかひらしんじ</sup>氏をお招きして「かけっこ教室」を開催し、市内外から参加した小学生70人が、トップアスリートから走る楽しさや走り方のコツを学びました。

また、北海道との共催事業として、元プロ野球選手の牧谷宇佐美<sup>まきたに うさみ</sup>氏をお招きし「スポーツチャレンジ教室」を開催しました。スポーツセミナー、少年野球教室、野球肘検査を実施し、85人の選手・指

導者・保護者のご参加をいただいたところです。

障がい者スポーツの振興については、ボッチャ競技の普及を目的として、8月31日に「レク・ボッチャ審判運営講習会」を開催するとともに、名寄市社会福祉協議会との共催で「ボッチャ交流大会」を開催し、市内外から約300人の選手や観客が訪れ、障がいの有無や年齢を問わず、幅広く楽しむことができる競技であることを、多くの方に知ってもらう機会となりました。

スポーツ合宿の誘致については、新たな団体として道内の高校サッカー部やバスケットボール部が、夏休みを利用して本市で合宿を行いました。

また、道外からは国内有数の強豪校である阪南大学高等学校トランポリン部が本市を訪れ、地元トランポリン少年団と合同練習を実施するなど、交流人口の拡大だけではなく、ジュニア選手の競技力向上が図られ、スポーツ合宿推進の効果が広く表れたところです。

今後もNスポーツコミッションや各競技団体のネットワークを活かして情報収集を行いながら、夏季合宿の環境づくりを進めるとともに、その効果が地元経済やジュニア選手の競技力向上に広く反映されるよう、工夫を重ねながら事業に取り組んでまいります。

## 青少年の健全育成

次に、青少年の健全育成について申し上げます。

11月23日に、スポーツセンターを会場に、第13回名寄市子ども会スポーツ大会「フットサル」競技を開催しました。町内会の子ども会や小中学校から過去最多となる33チーム、219人の児童生徒が参加し、スポーツを通して交流を深めました。

次に、青少年センターについて申し上げます。

10月24日に令和元年度名寄市青少年表彰式を行い、学校や地域活動などにおいて顕著な功績のある2個人を表彰しました。

また、小学生から高校生までを対象に、10月から名寄市青少年健全育成標語を募集し、11月29日に最優秀作品の表彰を行う予定です。

## **地域文化の継承と創造**

次に、地域文化の継承と創造について申し上げます。

11月2日から4日にかけて、市民文化センターを会場に、第62回市民文化祭を開催しました。展示発表は30団体、11個人から書道、写真、絵画など1,300点を超える作品が出展され、来場者は3日間で延べ1,800人を超えました。また、4日に市民文化センターE N R A Yホールで開催した芸能発表には、楽器の演奏や舞踊、詩吟など、24団体が出演し、約800人が鑑賞しました。

また、11月2日から3日にかけて、ふうれん地域交流センターを会場に風連文化祭を開催しました。会場には20団体、5個人から700点を超える作品が展示されました。演芸発表では、小学生から高齢者まで19団体から172人が演奏や踊り、歌などを披露し、会場いっぱい集まった延べ700人の市民が大きな声援を送り、楽しいひと時を過ごしていただきました。

11月11日には、市民文化センターE N - R A Yホールを会場に、名寄市民文化講演会が開催されました。本市の交流自治体である東京杉並区の中学校で、義務教育初の民間校長を務めた藤原和博氏ふじはらかずひろから「人生100年時代に向けての生き方・子供の育て方」をテーマにご講演をいただきました。保護者、教育関係者など、約200人の来場者は、藤原氏ふじはらのテンポ良く、全体を巻き込んだ情熱たっぷりの語り引き込まれていました。

次に、北国博物館について申し上げます。

10月4日から11月3日まで企画展「藤倉英幸展ふじくらひでゆき 私の中の北海道」を開催し、約40点の貼り絵による北海道の四季折々の風景や藤倉氏がデザインしたふうれん特産館のパッケージや名寄ゆかりのポスターなどを展示し、期間中862人の来館者がありました。10月19日には藤倉氏を講師に迎え、取材旅行の思い出など「小さな旅と風景」

と題した講演会を開催し 42 人が参加しました。

本市の指定文化財である名寄教会会堂の外壁の塗装工事などについては、9 月末日に完成し、明治 42 年に建立された市内最古の洋風木造建築物の外観を保持することができました。

以上、主な行政事項について、その概要を申し上げ報告といたします。